MAS 評価記録シート

Modified Ashworth Scale｜専門職記入用・日本語要約／独自記録様式

ID・氏名：_____　評価日：____年____月____日

診断・発症日：_____　評価者：_____

評価時刻：_____　評価側：右・左・両側　目的：初回・再評価・介入前後

01 測定条件をそろえる

肢位・支持：_____

服薬・注射と時刻／経過日数：_____

直前の運動・伸張／疼痛・体調：_____

実施速度・試行回数・採用ルール：_____

02 筋群別の結果　［選択肢：0・1・1+・2・3・4／NT＝評価不能］

対象筋群	左右	他動運動方向	肢位・隣接関節	MAS	抵抗・痛み等
肘屈筋群	右・左	伸展			
手関節屈筋群	右・左	背屈			
手指屈筋群	右・左	伸展			
股関節内転筋群	右・左	外転			
膝屈筋群	右・左	伸展			
足関節底屈筋群	右・左	背屈			
その他：	右・左				

※必要な筋群のみ記入。両側や異なる肢位は別行・別紙へ。合計点は算出しません。

※手指は手関節角度、足関節は膝角度を記録。痛みで判定できない場合はNTと理由を記入。

生活上の困りごと／次回までの目標：_____

_____

Bohannon & Smith, 1987. doi:10.1093/ptj/67.2.206

MAS 採点早見表・再評価メモ

Modified Ashworth Scale｜専門職記入用・日本語要約／独自記録様式

03 6段階の採点基準［臨床向け日本語要約］

0	筋緊張の増加を認めない。
1	軽度の増加。引っかかりと解放、または可動域終末のわずかな抵抗。
1+	軽度の増加。引っかかりの後、残りの可動域（全体の半分未満）で軽い抵抗が続く。
2	可動域の大部分で、より明らかな筋緊張の増加がある。他動運動は容易。
3	著しい筋緊張の増加があり、他動運動が困難。
4	患部が屈曲位または伸展位で硬く固定されている。

04 判定で迷ったとき

1と1+：引っかかりの後に抵抗が残るかを確認。「終末25%」で自動判定しない。

2：範囲だけでなく抵抗の程度と動かしやすさも確認する。

0：正常と低緊張は区別できない。4：原因や治療適応を単独で決定できない。

繰り返しで値が変わった場合：各結果と条件を残す。最低値を自動採用しない。

05 同じ筋群・同じ条件で経過を比較する

対象筋群・側：_____ 肢位・運動方向：_____

日付：_____ MAS：_____ 痛み・動作・介助量：_____
日付：_____ MAS：_____ 痛み・動作・介助量：_____
日付：_____ MAS：_____ 痛み・動作・介助量：_____

補足：MASは他動運動への抵抗を段階化する尺度です。拘縮・疼痛・防御性収縮などの影響も受けます。痙縮の原因や治療効果は、ROM・必要に応じたMTS・生活動作と合わせて判断します。

Bohannon & Smith, 1987. doi:10.1093/ptj/67.2.206